

2025年7月発行

茨木御堂  
第302号



真宗大谷派

 **茨木別院**  
(輪番 河原 恵)

〒567-0817 茨木市別院町3-31  
TEL (072) 622-2903  
FAX (072) 625-9445

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

みんなに原動力がかけられている

木越宗務総長視察



(『真宗聖典』第二版一九四頁)

帰命は  
本願招喚の  
勅命なり

今年も早くから暑い日が続きます。前線が通過すると雷が鳴り、風も強く吹きます。地球温暖化は、石油やガソリンを大量に燃やすことよって生じるそうです。中生代に地球上にあった二酸化炭素が再び地上に放出され、温室のようなはたらきをして気温を上げるからだそうです。

便利で快適で楽な生活をしたという人間の欲の為せる業であるといえます。自業自得です。それでもこの自然災害が自分たちのせいだとは思わないのが人間です。

阿弥陀如来は、このような私たちを救済しようと立ち上がり本願を建立してくださいました。自我の狭い心に固執して生きるのではなく、如来にまかせて生きる。その喜びを立脚地として人生を生きる。その真実性を自覚する。このことを南無阿弥陀仏という名号が表現しています。

自然の営みも、自身の人生も、如来の本願招喚の勅命といただき、その勅命として回施された大行を生きる。

一切苦悩の衆生を捨てないと作願し、回向してください。これが浄土真宗という真実の教えの要であると思います。

本堂の改修工事も素屋根が出来上がり、屋根瓦の撤去が始まりました。本格的な工事に突入しました。これもまた私たちに回施された本願招喚の勅命だと思っています。

崇敬寺院のご住職、ご門徒の皆様、茨木別院のご門徒の皆様、企業、団体、一般、個人の皆様には、この茨木別院のためにご懇志の進納をお願いしたく存じます。詳しくは、お届けする趣意書および申込書等をお読みいただき、何とぞ本堂、諸殿の保存修理にご支援、ご協力を賜われますよう、よろしくお願いいたします。

南無阿弥陀仏 輪番 河原恵

茨木別院関連ホームページ

茨木別院 ➔ [ibarakibetsuin.or.jp](http://ibarakibetsuin.or.jp)

いばらき大谷学園 ➔ [ibarakibetsuin.or.jp/kids/](http://ibarakibetsuin.or.jp/kids/)

真宗教団連合ホームページ

<http://www.shin.gr.jp/>

真宗教団連合

検索

茨木別院 月行事ご案内

● 教如上人ご命日・五日講(同朋会)

- ・日時 五日(土) 午後一時半より
- ・講師 加藤恵師

● 本山九日講

- ・日時 九日(水) 午後二時より
- ・会所 南林寺

七月 ● 暁天講座

- ・日時 十六日(水) 午前七時より勤行、引き続きご法話
- ・講師 山口知丈師

\*パンと牛乳を(株式会社)京仏具小堀様の協賛でご用意しております。

● 親鸞聖人ご命日・二十八日講

- ・日時 二十八日(月) 午後一時半より
- ・講師 茨木別院輪番

● 教如上人ご命日・五日講(同朋会)

- ・日時 五日(火) 午後一時半より
- ・講師 加藤恵師

● お盆墓法要

- ・日時 七日(木) 午前十時より
- 本山九日講

八月

- ・日時 九日(土) 午後二時より
- ・会所 長賢寺

● 孟蘭盆会・夏の御文(げのおふみ)

- ・日時 十三日(水)・十四日(木) 午後一時半より三時頃まで
- ・講師 茨木別院輪番

● 親鸞聖人ご命日・二十八日講

- ・日時 二十八日(木) 午後一時半より
- ・講師 茨木別院輪番

合祀墓増設について

現在ご利用いただいている合祀墓は、利用者の急増にともない個別納骨で預かる棚が残りわずかとなりました。そのためこの度、合祀墓の増設を行うことにいたしました。六月より工事が始まっており早ければ七月十五日からご利用いただけます。納骨を希望いただいている方々は、今しばらくお待ちください。詳細が決まり次第ホームページにてご案内させていただきます。

なお新しい合祀墓の利用については、納骨方法および冥加金が変わりとなりますのでご了承のほどよろしく願います。

	特別納骨	個別納骨	個別納骨	個別納骨	合同納骨
預かり年数	30年	30年	20年	10年	
桐箱サイズ	五寸	四寸	四寸	四寸	
納骨冥加金	500,000円	300,000円	200,000円	100,000円	70,000円
刻名料	33,000円	33,000円	33,000円	33,000円	
冥加金合計	533,000円	333,000円	233,000円	133,000円	70,000円



いばらき大谷学園

# 園の子どもたちへ



## ☆…保護者参加型誕生会…☆

前年度の誕生会から、その月のお誕生日の子どもたちの保護者の方々にも参加してもらい、一緒にお祝いするようになりました。おうちの人の来てもらうのは嬉しい気持ちと恥ずかしい気持ちが入り混じり複雑な表情な子どももいれば、いつも以上に張り切っている子どももいます。先生やみんなからのプレゼントの最後には、季節の歌を歌っています。子どもたちはすぐに覚えておうちでもよく歌っているようです。園でも毎日歌声が響いています。

- 四月 ちゅうりっぷ
- 五月 つばめになつて
- 六月 時計のうた
- 七月 かたつむり
- 八月 うみ
- 九月 とんぼのめがね
- 十月 どんぐりころころ
- 十一月 まつぼっくり
- 十二月 おしょうがつ
- 一月 コンコンクシヤンのうた
- 二月 ゆきのペンキやさん
- 三月 はるがきた

お仕事の都合で参加出来ない保護者の方もいらっしやるかと思いますが、おうちでも歌ってみてください。

木村千夏

## 身近なものから感性を育てる

笹尾典子

今年度も始まって現在二か月が経ちました。新入園児のお友だちは子ども園がどのような場所かだんだんとわかり、「せんせい！おはよう！」と元気に登園するようになりました。零歳児や一歳児のお友だちもにこにことお部屋や園庭で過ごしている姿を見て、子どもたちの適応力は本当に凄まじいと感じる毎日です。

子どもたちは園庭で遊ぶことを楽しんでおり、植物や虫も見つけています。「こんなはっぱみつけたよ」「だんごむしいっぱいいる」など様々なものに興味津々。てんとう虫やちようちよを見つけると走り回って追いかけています。中にはアリのジーッと見ている子も。また、各学年で育てている花や野菜が大きくなっていることに「みてみてー！ここにいちごのあかちゃんいるよ」など教えてくれるお友だちもいます。好奇心旺盛なこの時期に、いろいろな動植物に触れることで感性を育てていってほしいです。虫が苦手な大人だと、触っているだけで「ひいっ！」となる気持ちもよくわかります。私自身も苦手なものはありません。しかし、この時期にしかできない、純粋な体験をして大きくなってほしいなと思っています。

赤ちゃんと言われる時期から就学に向けて、これからの様々な経験をjして、素敵な小学生になる手伝いができるよう力を注ぎたいです。

茨木別院報恩講十一月十五日結願速夜法話



## 「親鸞聖人の法然観」③

講師：山田恵文師

(三重教区三重組安正寺住職)



親鸞聖人の法然観というテーマでお話しさせていただきます。親鸞聖人の先生は法然上人です。その法然上人を親鸞聖人はどのような方と見ていたのかということをお話ししたいと思います。

親鸞聖人の著作の中で、法然上人に言及しているものとしては、「正信偈」の源空章があります。また、七高僧を讃えた和讃である『高僧和讃』の中に、法然上人のお仕事を讃えた和讃、源空讃があります。源空讃は全部で二〇首あります。この「正信偈」と『高僧和讃』を学ぶことによつて、私たちは親鸞聖人が法然上人のことをどのように思っていたのかということが分かるのです。

まず「正信偈」源空章を見てみましょう。「本師源空明仏教」から始まるところです。これは漢文ですの  
で、読み下すと、

本師源空は仏教に明らかにして、善悪の凡夫人を憐愍せしむ。

真宗の教証、片州に興ず。選択本願、悪世に弘む。生死輪転の家に還来することは、決するに疑情を以て所止とす。

速やかに寂靜無為の楽に入ること、必ず信心を以て能入とすといえり。

「正信偈」

となります。最後に「いえり」とありますね。これは、法然上人はこのような言っていますということですから、今読んだところに法然上人の教えがあるということになりますね。

前半部分を見てみましょう。「本師源空は仏教に明らかにして」から「選択本願、悪世に弘む」までです。この部分を訳すと、「法然上人は仏教の教えに明らか

であつて、善人も悪人もすべての凡夫人をお憐れみになりました。真宗の教えと証とをこの国におこしました。すべての人々を救いたいという阿弥陀の願いをこの悪世に弘めました」となります。これが法然上人のお仕事だと親鸞聖人はまとめていっているのです。

この中でまず注意したいのは、「本師源空は仏教に明らかにして」と言っていることです。「仏教に明らか」であり、「仏教を明らか」とは言っていない。法然上人は仏教を明らかにしました、と言つてもおかしくはないですよ。その場合は、法然上人は仏教をさまざまに解釈して、その内容を説明して下さった方であるという意味になるでしょう。

「仏教に明らか」というのはどうでしょうか。この場合は、仏教に精通していたことになるでしょう。そもそも仏教とはどういう教えなのかよく分かつていた方であるという意味が込められています。仏教は、「仏の教え」と書きます。仏が説いた教え、それを仏教と言うのですが、もうひとつ大事な意味があります。それが「仏になるための教え」、誰もが仏になるための教え、それを仏教ということです。仏が説いた教えであり、その教えによって誰もが平等に仏になることができる。誰もが平等に悟りをひらくことができ

る。これが仏教という教えなのです。そのように、誰もが等しく平等に仏になるための教えであることを、法然上人はよく分かつていた方であるということが、「仏教に明らか」という表現に現れています。

法然上人は、南無阿弥陀仏と称える念仏を人々に説きました。そして、あらゆる人々に、念仏の教えによる平等の救いを弘めて下さった方です。そのお仕事を踏まえて、親鸞聖人は「仏教に明らか」と言っているのですね。

これには背景がありまして、法然上人の教えは当時、弾圧を受けました。専修念仏弾圧事件と言います。当時の国家と仏教界から弾圧を受けて、最終的に法然上人のお弟子さんが四人死刑になっています。法然上人と親鸞聖人は流罪となり、京都を追放になっています。その弾圧事件を起こしたのは、他でもない仏教者です。当時の仏教界が法然の念仏教団を批判して、最終的には人を殺すことにまでなっていました。同じ仏教者です。法然上人も仏教者、弾圧した側も仏教者。その弾圧した側の人々のことを親鸞聖人は『教行信証』で、「仏教に昏(くら)い」といいう方をしていいます。仏教に昏いから、つまり仏教がどういふ教えかよく分かつていないから、法然上人の教えが理解できず、

結果的に法然の教団を弾圧して人を殺すことにまでな  
ってしまった。これはまさに仏教に昏いということな  
のです。同じ仏教を勉強していても対照的です。だか  
らここにある「仏教に明らか」というのは、まさに法  
然上人は仏教が平等の教えである、誰にでも開かれた  
平等の教えであることがよく分かっておられた方であ  
るという意味が込められているのです。念仏の教えを  
伝えて、誰もが仏になる道を明らかにして下さった方  
であるということから、仏教に明らかと表現されてい  
るのです。このように親鸞聖人が書かれたものをてい  
ねいに見ていくと、親鸞聖人はよく考えて書いておら  
れることが分かります。

次の「真宗の教証、片州に興ず」とは、法然上人が  
真宗をこの日本に興したということを述べています。  
ここで言う真宗とは教団の意味ではありません。真宗  
とは、「まことのむね」と読むことができるように、  
本当の拠りどころという意味なのです。親鸞聖人は法  
然上人の念仏の教えに出会い、これこそ私たち人間の  
本当の拠りどころだと思ったから、念仏の教えを真宗  
と呼んだのです。ここに親鸞聖人の教えの受け止めが  
見られます。

そして、「選択本願、悪世に弘む」と述べて、法然

上人は阿弥陀の本願をこの悪世に弘めて下さったのだ  
と、そのお仕事を讃えています。このように、法然上  
人は阿弥陀の本願を伝えてくれた方であると親鸞聖人  
は受け止めています。法然上人の大切なお仕事をこの  
点に見るのです。これについては、『高僧和讃』で更  
に尋ねていきましょう。

親鸞聖人が大切にされた七人の仏教者がいます。そ  
れを七高僧と言います。念仏の教えを伝えてくれた大  
切な人として、インドから順番に七人の方を選んでい  
ます。その七番目が法然上人です。その一人ひとり  
讃えた和讃を親鸞聖人は作成されました。それを『高  
僧和讃』と言います。法然上人に関しては全部で二〇  
首あります。七高僧の中で実際に親鸞聖人が出遇われ  
たのは法然上人だけです。そのこともあってか、法然  
上人がどういう方であったのかを謳う和讃がたくさん  
見られます。その一部を見てみましょう。

第一首目は次のようにあります。

本師源空世にいでて弘願の一乗ひろめつつ  
日本一州ごとごとく浄土の機縁あらわれぬ

『高僧和讃』

法然上人はこの世に現れて、本願の一乗を広めました。そして、この日本全土に浄土の機縁が現れたのです、と謳っています。

### 本師源空命終時 建曆第二壬申歳

#### 初春下旬第五日 浄土に還歸せしめけり

#### 『高僧和讃』

これは最後の二〇首目の和讃です。法然上人がお亡くなりになったのは、一二二二年一月二十五日のことです。そのことを親鸞聖人は、浄土にお帰りになりました、と謳っています。帰ったということは、もといた場所に戻ったということですね。ですので、法然上人はもとは浄土におられたというのが親鸞聖人の法然観なのです。

このように源空讃の構成は、まず一首目で「本師源空世にいでて」、法然上人はこの世に誕生したということを書きます。その後、この世界でどのような人生を送り、どのような教えを残したのかということをおの先の和讃で表現し、そして最後二〇首目で「浄土に還歸せしめけり」、浄土にお帰りになりました、と謳うのです。このような構成になっています。では、浄

土におられたとはどういうことなのでしょう。

改めて一首目を見てみましょう。「本師源空」の「本師」とは根本の師という意味ですが、そもそもは釈尊の敬称です。その釈尊の敬称を表す本師という言葉をもって法然を呼ぶのにはどう思うのでしょうか。それは、法然上人は釈尊と同じ仕事をされた方である。釈尊と同じ存在であるという意味が込められているのです。

釈尊は私たちに阿弥陀の願いを伝えてくれた方、これが親鸞聖人の釈尊観です。具体的に言えば、釈尊はたくさんの教えを残し、それが今日經典として伝わっているのですが、その一つに『無量寿経』という經典があります。そこに阿弥陀の本願が説かれています。この阿弥陀の本願を説くお仕事は釈尊の仕事の中でも特に大事な仕事であったと受け止めているのが親鸞聖人です。本師源空といっているのは、法然上人はまさに阿弥陀の願いをこの世に伝えて下さった方なので、『無量寿経』を説かれた釈尊と同じ仕事をした方であるということから、尊敬の意味を込めてこう呼んでいるわけです。

(九・十月号へ続く)

### 茨木別院令和の大改修

六月十八日に、東本願寺より木越渉宗務総長が茨木別院改修工事の進捗状況について視察に来られました。当日は、改修工事請負業者の金剛組からも代表取締役社長の大槻氏や棟梁の木内氏等が参加され、実際に改修工事中の屋根に登り見学会を開催しました。見学後、金剛組と意見交換も交わされ、茨木別院改修工事の報告だけでなく、今後改修工事が必要になる他の別院の状況についても相談されていきました。



### 敬 弔

ご生前のご遺徳を偲び、  
謹んで哀悼の意を表します。(敬称略)

#### 記

- 法名 釋一念  
俗名 藤田之一 九十五歳
- 法名 貞徳院釋尼祥慈  
俗名 服部定子 一〇〇歳
- 法名 釋尼雪山  
俗名 松川雪子 八十九歳
- 法名 釋直道  
俗名 片岡久直 七十四歳

### 永代経志納御披露

- 願人 岡村 豪男

右の通りご志納頂きましたことを御披露いたします。

### 編集後記

茨木別院墓地内にある、合祀墓の個別納骨ですが、ここ数年でたくさんの方にご利用いただき個別で預かる空きが残りわずかとなっております。最近では墓じまいをされる方の増加にともない合祀墓の利用を希望される方も増えていきます。たくさんの方から合祀納骨についてのお問い合わせをいただいております。個別納骨の枠がなくなることを心配される声もありましたが、今回合祀墓を増設することになりました。引き続き合祀墓のご利用をお待ちしております。

竹内明人

— 生花・供花・けいこ花 —

### 株式会社花 廣

茨木市大手町一二一八

☎(〇七二)六六二一四〇二